

施肥 有機質・土壌改良剤・化学肥料など（購入の場合はメーカー名記入）

使用量はkg/10a

＜土づくりの使用資材・肥料について＞

商品名	原料	メーカー(購入先)	全N%	化成N%	全P%	化成P%	全K%	化成K%	有機率(%)	使用目的	計画				実績			
											使用量	使用時期	回数	化成窒素kg	使用量	使用時期	回数	化成窒素kg
ドリップファーム1号	硝酸肥料	タキイ種苗	10	10	20		20		0	生育初期	150	7~8月 毎日	60	15.0	150	7~8月 毎日	60	15.0
ドリップファーム2号	硝酸肥料	タキイ種苗	13	13	8		25		0	生育中後期	600	9~6月 毎日	300	78.0	104	9~6月 毎日	52	13.5
フィッシュリユール	魚	自家醗酵液							100	食味	N成分 0.15kg	毎日	300	0.0	N成分 0.15kg	毎日		0.0
ニガリ	海水								100	ミネラル	少量	毎日	24	0.0	少量	毎日		0.0
黒糖	サトウキビ	自家醗酵液							100	ミネラル	少量	毎日	300	0.0	少量	毎日		0.0
カルシウム88	貝化石Ca	フロサキシード							100	ミネラル	少量	毎日	12	0.0	少量	毎日		0.0
グリーントップ	海水 Mg	馬居化成							100	ミネラル	少量	毎日	22	0.0	少量	毎日		0.0
ブロン	ゼラチン	サンセイ	5		3		2		100	アミノ酸	少量	毎日	300	0.0	少量	毎日		0.0
シイタケパウダー	シイタケ	自家							100	アミノ酸	少量	毎日	52	0.0	少量	毎日		0.0
ケルバック	海藻	ロイヤルインダストリー							100	アミノ酸	少量	毎日	6	0.0	少量	毎日		0.0
トウゲン	各種総合酵素	酵素の世界社							100	健康保全	少量	毎日	52	0.0	少量	毎日		0.0
米酢	米酢									殺菌	500倍	7日毎	52	0.0	500倍	7日毎		0.0

【慣行農法との比較】

*化学肥料

窒素分で比較して 当地比	-	削減
化学肥料	窒素使用量 (kg/10a)	
慣行使用量	-	
実績使用量	28.5	

*節減対象農薬

当地比	-	削減
節減対象農薬	実績回数	地域の慣行防除
土壌消毒剤		
除草剤		
殺虫剤		
殺菌剤		
その他薬剤		
合計	14	-

病虫害の防除 使用した天然防除資材・自作資材・農薬（成長調整剤、屋簷剤等を含む）

分類	商品名	原料/成分名	メーカー(購入先)	使用目的	計画				実績				使用量/10a			
					希釈倍率	使用量	使用時期	回数	カウント	希釈倍率	使用量	使用時期	回数	カウント	商品	成分
殺虫	アルバリン粒剤	ジノテフラン	アグロカネショウ	アブラムシ類・コナジラミ類		1g/株	定植前	1	1			1g/株	定植前	1	1	5
殺虫	グレーシア乳剤	フルキサメタミド	日産化学	コナジラミ・トマトサビダニ・アザミウマ・ハモグリバエ	2000	100~300L	夏秋春	2	2	2000	300L	8/30,9/4	2	2	2	2
殺虫	アブロードエースフロアブル	フェンピロキシメート・プロプロフェンシ	日本農薬	ダニ・コナジラミ類	1000~2000	100~400L	夏秋春	3	6	1000	300L	8/30,9/4,10	3	6	3	3,3
殺菌	トップジンM水和剤	チオファネートメチル	日本曹達	葉かび病・灰色かび病	1500~2000	150~300L	秋春	5	5	2000	300L	8/30,9/4	2	2	5	6
殺菌	アフエットフロアブル	ベンチオピラド	三井化学アグロ	うどんこ病・灰色かび病・菌核病・葉かび病	2000	100~300L	秋春	3	3	2000	300L	9/10	1	1	3	3
殺虫	ベネビアOD	シアントラニリプロール	丸和バイオケミカル	ハモグリバエ類・コナジラミ類・アザミウマ類・アブラムシ類	2000	100~300L	秋春	3	3	2000	300L	10/6	1	1	3	3
殺菌	スミレックス水和剤	プロシミドン	住友化学	灰色かび病	1000~2000	100~300L	秋春	3	3	2000	300L	10/6	1	1	3	3

備考:

独自の栽培方法です。一般の栽培には当てはまりません。10aの成分計算は一般とは大きく異なります。
 (一般の栽培と比べ6倍くらいの反当りの栽培本数です)
 IPM総合防除方式をとり、殺虫剤を減らしています。防虫網や、ラナーテープ、忌避剤を使用し、又、200台の通風機を使用して、外からの虫の侵入を防いでいます。
 昨年と比べて、農薬の回数が多いのは、ウイルス病対策の為、使用する可能性のある農薬を載せました。
 11月~2、3月期はボトキラー(バチルス菌)をダクト内に散布するのみとなります。

実績は 2023/10/23 現在。28.5kg 14回

栽培期間通して、化成肥料の化成窒素量 93kg、
 農薬の計画回数 殺虫 35回、殺菌15回 合計50回

	計画(作業、施肥、防除など)	実績(作業)
1月	収穫期	
2月	収穫期	
3月	収穫期	
4月	収穫期	
5月	収穫期	
6月	収穫期	
7月	耕起、防除、施肥	耕起
8月	定植・生育開花始まり、防除、施肥	8/12~27 定植
9月	生育開花、防除、施肥	生育開花
10月	収穫期、防除、施肥	10/15~ 収穫
11月	収穫期	
12月	収穫期	

定植開始:	令和5年8月12日
終了:	令和5年8月27日
収穫開始:	令和5年10月15日
終了:	令和6年7月